

要約する力を育てる国語科学習指導

学習指導部 佐藤吉則

1. 研究の趣旨

(1) 研究の動機とねらい

日常の言語生活の中で求められることは、人の話や文章を的確に要約して理解したり、他の人に話したり、書いたりして表現できる言語能力である。この「的確に要約する力」は、豊富な情報量のある現代社会においては、不可欠な言語能力といえるであろう。

普段の国語の学習においては、「文章の中の大事な言葉をさがしなさい。それを中心に文章としてまとめなさい」くらいの指導でした。「どのようにして文章の中の大事な言葉を見付けだすのか。また、どのようにすると要約文が書けるようになるのか」については十分に指導がなされなかった。つまり、要約文を書く活動をさせてはいたが、まとめる指導が不十分であったため、この主題を設定した。

(2) 児童の実態

国語科の学習の実態調査結果（T小学校4年生）は、右上の表の通りである。

指示語、接続語、語句が十分に理解されておらず、要点を把握する力も弱い傾向にある。特に、指示語の働きが不十分な段階にあり、文章のつながりに注意して読んでいることは、少ないようだ。それは、文章の要点把握にも大きな影響を与えている。

	調査項目	問題番号	正答率
1	接続語の理解	(1)	64.3
		(2)	64.3
2	指示語の理解	(1)	28.6
		(2)	42.9
3	語句の理解	(1)	50.0
		(2)	65.7
		(3)	78.6
4	要点の把握	(1)	21.4
		(2)	78.6

2. 研究仮説

(1) 仮説

文章を要約する学習において、字数を制限し、全体を見通し、主語と述語の整った文章を書くようにさせれば、要約文が書けるようになるであろう。

(2) 仮説についての基本的な考え

① 字数の制限

ア 先の見通しがあるので、児童にとって書きやすくなる。

イ 重要語句を選ぶようになる。

② 主語と述語の整った文

多くの文章の中から最も重要と思われる主語と述語を選択し、一文としてまとめさせる。それに合わせて修飾語も選ばせるようにし、新たな文を作らせる。

③ 全体を見通したまとめ

文章全体を見通した要約文にして、各段落の要点に要旨との整合性を持たせる。